



北海道新篠津高等養護学校

コミュニティ・スクール通信

令和3年12月3日

北海道新篠津高等養護学校
学校運営協議会事務局

北海道新篠津高等養護学校は開校から29年が経ち、来年度には30周年を迎えます。

昨年度より導入したコミュニティ・スクールを活かし、地域とのつながりを一層強く「地域とともにある学校づくり」を進めていきます。



令和3年度 学校運営協議会委員

今田 義春	新篠津村商工会 前会長
上田 マリ子	北海道自閉症協会 会長
黒壁 修	社会福祉法人新篠津福祉ふれあいの苑 施設長
磯貝 隆之	北翔大学 教授
保田 裕美	北海道新篠津高等養護学校 PTA会長
原田 志郎	新篠津村社会福祉協議会 会長、新篠津村区長会会長
窪田 秀幸	新篠津村教育委員会 教育次長
佐藤 千佳	新篠津村生涯学習委員会 委員長
早川 仁史	新篠津村農業協同組合 代表理事組合長
松永 厚美	新篠津村スポーツ推進委員会 委員長
伊波 ひとみ	北海道新篠津高等養護学校、進路・卒後支援振興会 会長
宮川 卓也	しんしのつ温泉たっぴの湯 支配人
久富 正規	北海道新篠津高等養護学校 校長

第1回学校運営協議会の開催

11月24日(水)本校の会議室にて、北海道新篠津高等養護学校第1回学校運営協議会が開かれました。

始めに、久富校長から学校経営方針についての説明があり、新篠津高等養護学校の教育活動や寄宿舎生活、生徒の進路状況などについて委員の皆さんに説明をしました。

委員の方々からの意見



- 学校行事については、内容を変えたり縮小したりしながら実施できたことは良かった。また、新型コロナウイルス感染症対策のルールを学校で実践していることは、社会のルールを守ることに繋がっている。なお、学校の課題については、再発防止に努めてもらいたい。
- 生徒はストレスの自覚が弱いことから、生徒が何を感じているのか、対話や寄り添うことが大切である。寄宿舎においても、先生方が全体で集まる機会は少ないが情報共有が大切である。なお、学校において新型コロナウイルス感染症が出ていないのは、大きな成果である。
- 授業や学校行事において、生徒のストレスの発散をどのようにするのが課題と思われる。新型コロナウイルス感染症が出なかったことは、それだけ生徒の会話等が制限されたこと。話すことは、社会に出て必要なので今後も配慮した指導を願う。
- 進路の状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた業種もふくめ、生徒が希望する就職先を見つけていただきたい。
- 校長より

生徒が豊かな生活につながるような指導を行っていく。また、ストレスがあることを表現できない生徒も見られるため、生徒一人一人に寄り添って教育活動を続けていき、充実した学校生活を送りながら、地域に貢献できる教育活動を進めていきたい。

※上記以外にも、たくさんの感想等をいただきました。本校ホームページにも掲載しています。



